

「ふくし共育」って な・あ・に？

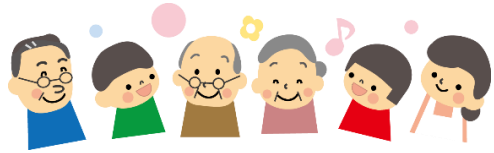


(正式には「福祉教育」ですが、大田原市社協では「ふくし共育」と表しています。)

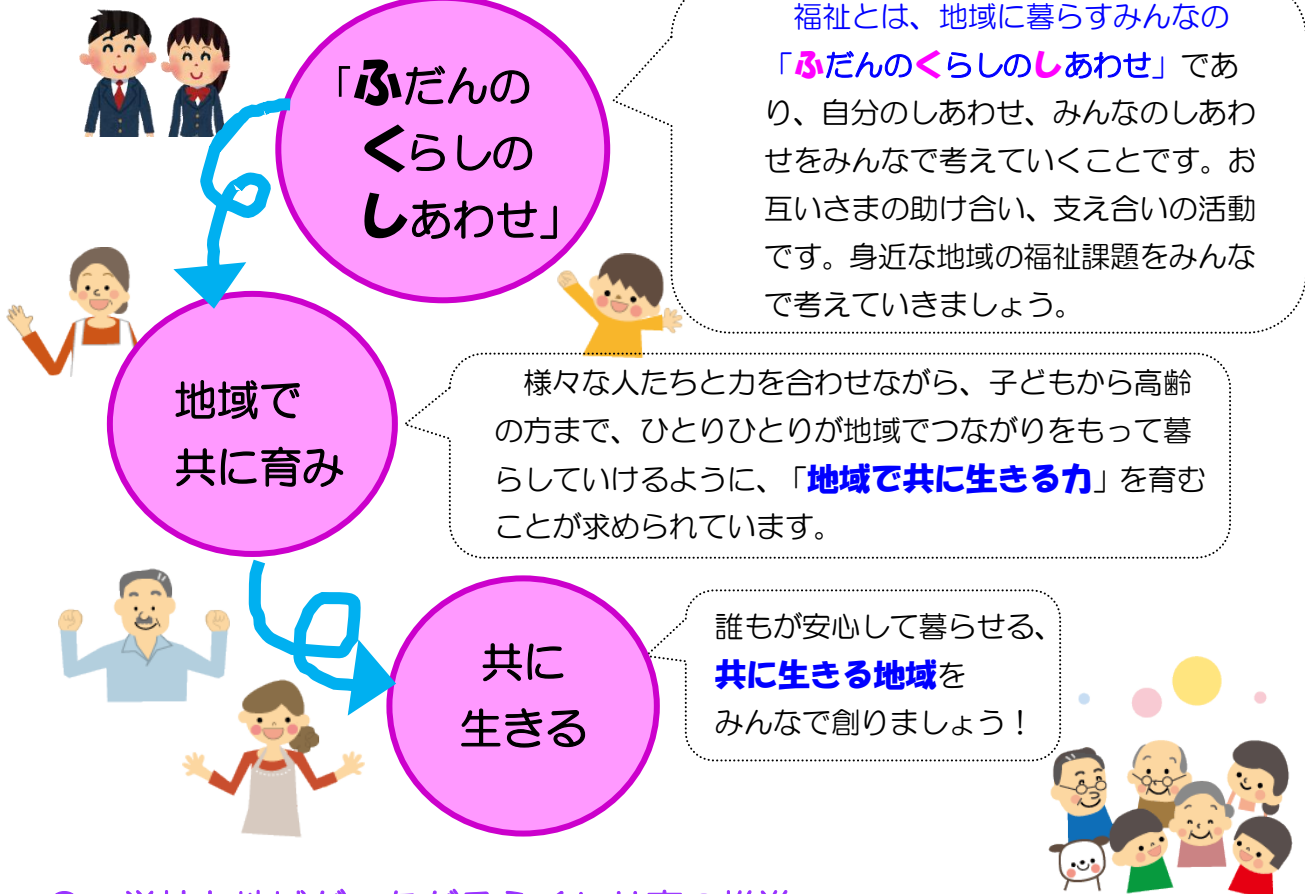
○ 福祉教育（ふくし共育）のねらい

子どもから高齢の方まで、助け合いながらみんなが地域で共に生きる社会を創っていくことを目指します。地域のつながりの希薄化や孤立化が社会問題となっている中、一人ひとり、自分自身が、**地域でつながりをもって暮らしていけるように**「地域で共に生きる力」を育むことが重要です。

大田原市社会福祉協議会は、地域と学校と共に「ふくし共育」を進めています。



○ どうして「ふくし共育」なの？



○ 学校と地域がつながるふくし共育の推進

子どもたちは、地域に暮らす障がい当事者、高齢の方、様々な人との出会いやふれあいから、生命の尊厳、人間の生き方、それぞれの立場・心情を思いやり、支え合うことの素晴らしさに気づき、人間的に大きく成長し、地域への愛着心も高まります。

平成 26～29 年度に取り組んだモデル事業では、地域の福祉課題を解決するために、子どもも大人も一緒に考えることをとおして学ぶプログラムを提案しています。

「ふくし共育の重要性」

国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 准教授 大石 剛史

今、日本は世界に類を見ない超高齢社会に突入しています。単に高齢者が増えているだけでなく高齢者で一人暮らしの世帯が増えています。高齢者の問題に限らず、障がい者福祉の課題、生活困窮者の課題、子育てや育児、児童虐待などの児童福祉の課題など、様々な福祉課題が国中で増大しています。

これからの福祉を考えると、重要になるのは、私たちが暮らす身近な地域の中でのちょっとした助け合いや支え合いです。昔に比べ、地域のつながりは希薄化していると言われますが、ボランティアや地域福祉の活動に関心をもつシルバー世代や若者も増えてきています。

「ふくし共育」とは、私たち自身が、自分たちの身近な地域の中で「**ふだんのくらしのしあわせ**」を共に考え、育ち合っていこうということです。共に育ち合うことを通して、地域の絆が深まり、様々な課題に対応できる助け合いの地域が作れるのです。あなたも、自分に出来るところから、「ふくし共育」に参加してみませんか？

また、「地域ぐるみのふくし共育」にするために、現在の「ふくし共育」を次のような視点からふりかえってみてください。

- ①地域の様々な人が出会い、つながりを作れる取り組みになっているか？
- ②地域の様々な人がお互いのことを理解し、お互いのことを尊重し合えることを目指した取り組みになっているか？
- ③地域の課題をみんなで学び合い、具体的な地域の「ふくし」のあり方を考えられる内容になっているか？
- ④みんなで考えた地域の「ふくし」のあり方を実現するために、具体的な行動を起こすことを目指しているか？
- ⑤以上のようなことを、地域の様々な人の連携・協働で地域ぐるみで行うことができているか？

このようなことを意識することで、「地域ぐるみのふくし共育」が形作られると思います。今後も各地域で様々な人たちが協力し合いながら、「ふくし共育」の取組みを進めていただければと思います。



社会福祉法人大田原市社会福祉協議会 ☆社会福祉協議会はふくし共育・福祉教育を推進します！

○本 所 電話:23-1130
(地域福祉係) FAX:23-1138
大田原市浅香 3-3578-17
市福祉センター内

○湯津上支所 電話:98-3715
FAX:98-8011
大田原市佐良土 853
佐良土多目的交流センター

○黒羽支所 電話:54-1849
FAX:54-2745
大田原市黒羽田町 848